

行政視察報告書

平成 29 年 4 月 5 日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 樋之津 倫子

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

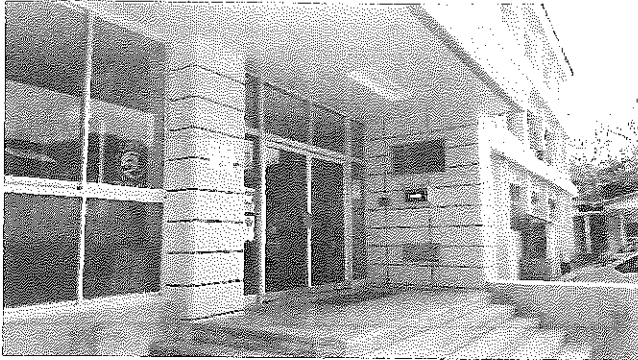
記

【1】 県

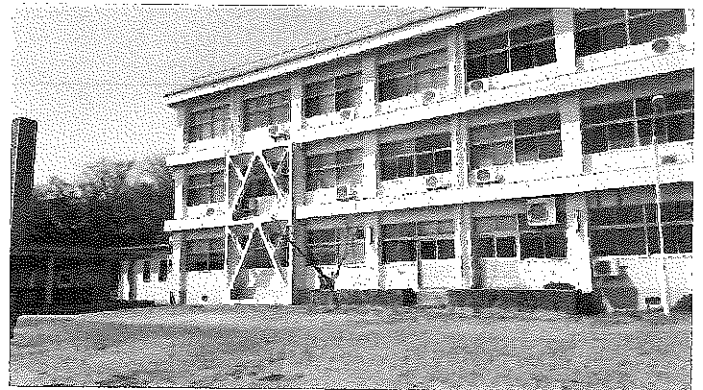
住 所	広島 県 竹原 市 港町 5-8-1,		
電 話	0846-24-6780		
視察案件	カブトガニ保護・環境保全に学ぶ		
期 日	平成 29 年 4 月 4 日 (火曜日)	11 時 00 分から	
	同日	15 時 00 分まで	
応 対 者	別紙名刺のとおり		
視察状況	別紙写真のとおり		
訪問施設	瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター		
概 要	カブトガニ生息の環境保護に関して		
	視察資料 視察状況写真 名刺		
	竹原ステーションは、瀬戸内有数の大規模干潟と藻場に恵まれた環境に建てられています。ここで海本来の姿を保全しそのための海域フィールド教育や研究を行っていると聞きました。		
	最近カブトガニが増殖傾向にあることを発見し、その保全に乗り出された大学教授の研究を視察に行きました。3月18日には保全のシンポジウムを開かれています。		
	添付書類 シンポジウム資料・視察写真・教授名刺		

4月4日、竹原市にある「広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター竹原ステーション（水産実験所）」の大塚^政教授を訪ねました。3月18日広島大学キャンパスでカブトガニ保全に関わるシンポジウムを行なった方だからです。

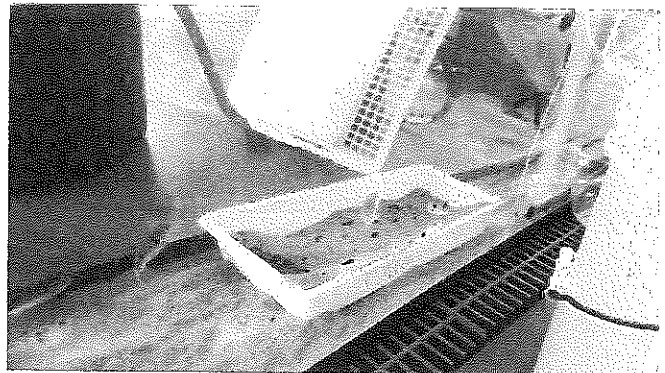
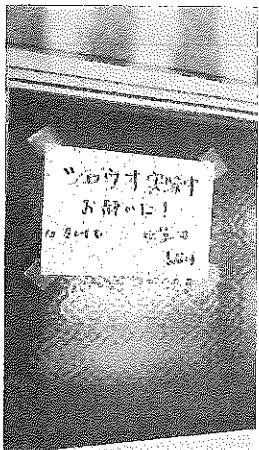
（写真左）が玄関ですが、駐車場にはこの建物の前身が「理論物理学研究所」だったことを証明する記念碑が横たわっていました。（写真右）かつて湯川秀樹博士もここで教鞭をとられたそうです。



応接間に通され（写真下左）シンポジウムの資料を頂きました。2013年から2015年まで竹原では海岸でカブトガニが目視でき、市内の川を泳ぐものも見つかり、幼生から5例、7例と成長度の違うものが50体見つかったということです。見つかったものの成長過程がそれぞれ違うことが生物学的には毎年のように生体が継続的にこの場所で産卵してきた証拠となるものであり、棲息地として認められるということなのだそうです。

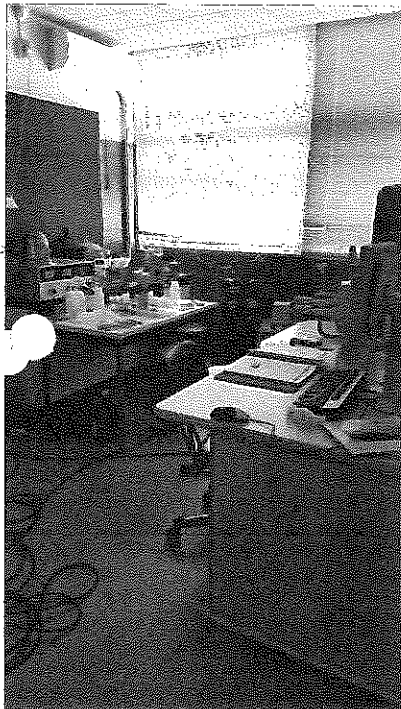
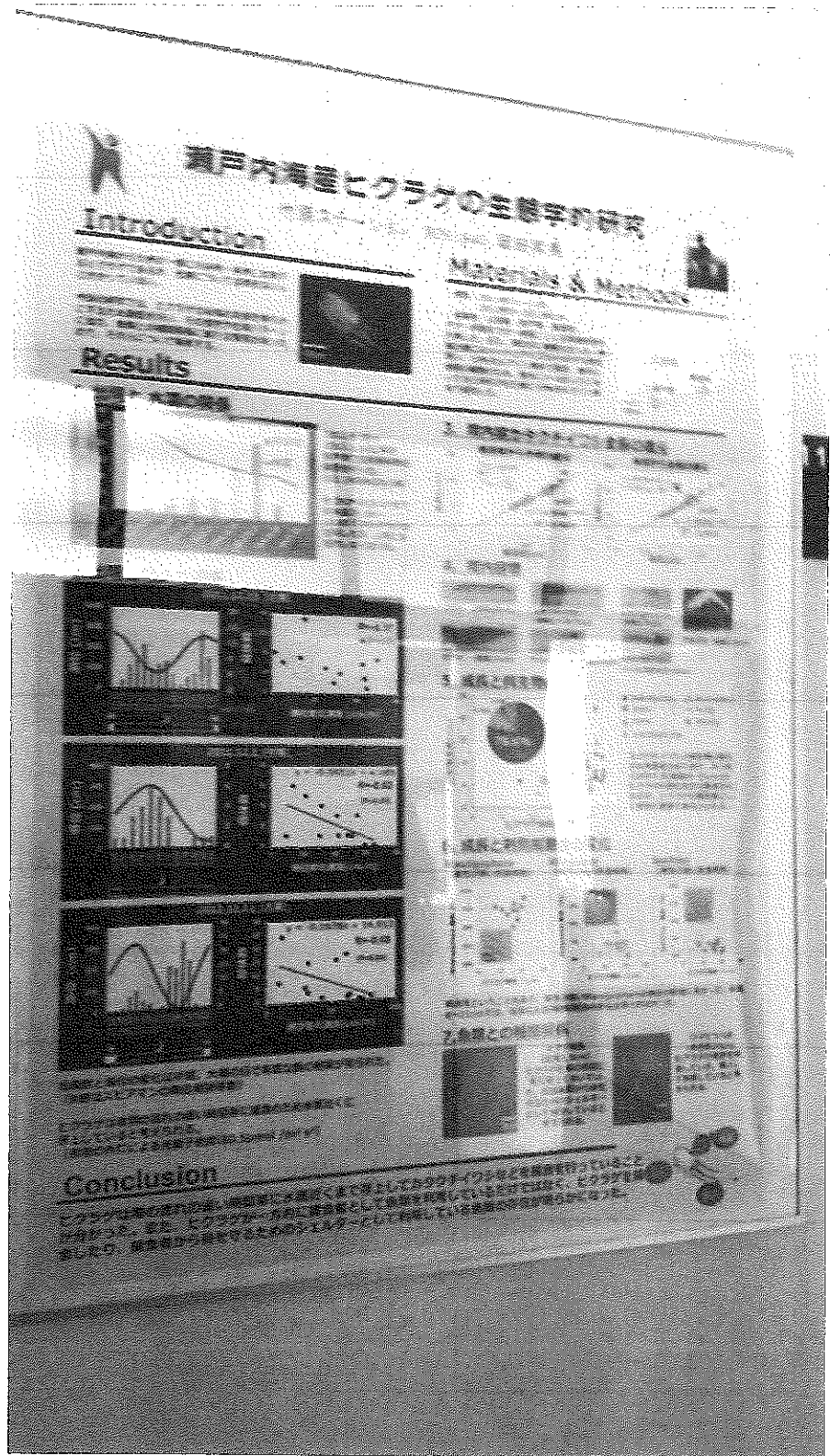


建物の表に回ると、プランクトン採取や瀬戸内を海洋研究で移動するための船もあって、本格的な研究^所だとい^うことを証明していました。研究所の西には海水を引き込んで各種の魚をいけすに入れていて、研究材料にしていました。コブダイ、白魚の研究（写真下左）、その産卵の研究（左から2番目）、フグの毒の研究など様々でした。（写真右端）

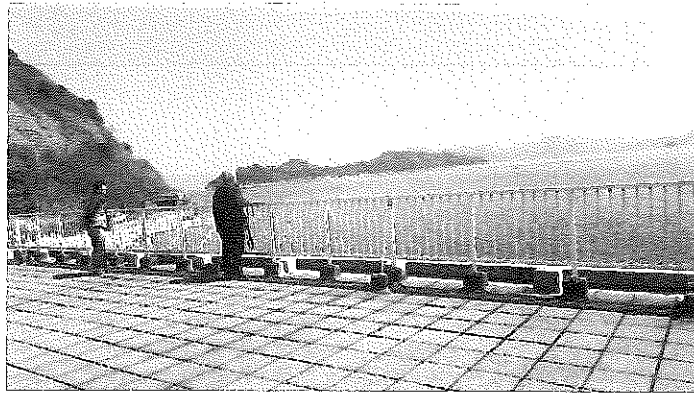
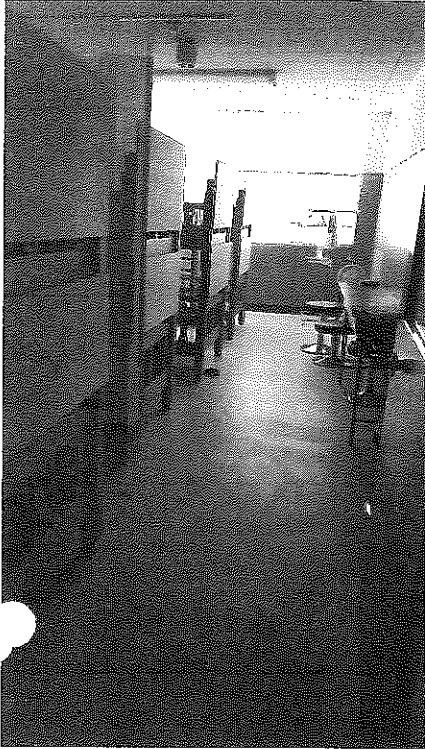


大塚先生ご自身はクラゲの研究をされていて、特にボックスジェルフィッシュの毒を研究されています。火クラゲの研究がポスターとなって壁に貼られていました。

写真左上が火クラゲの標本。右がポスター。左下が先生の研究室。

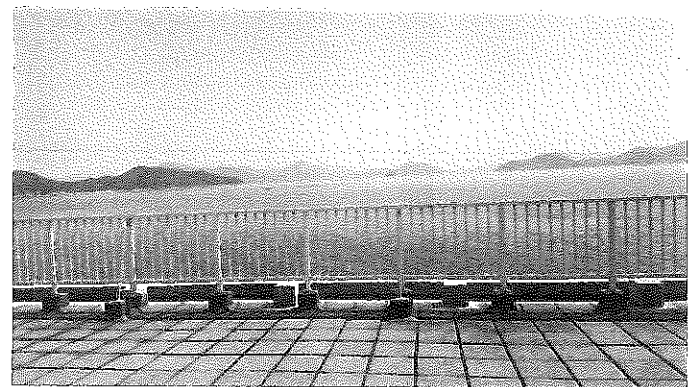
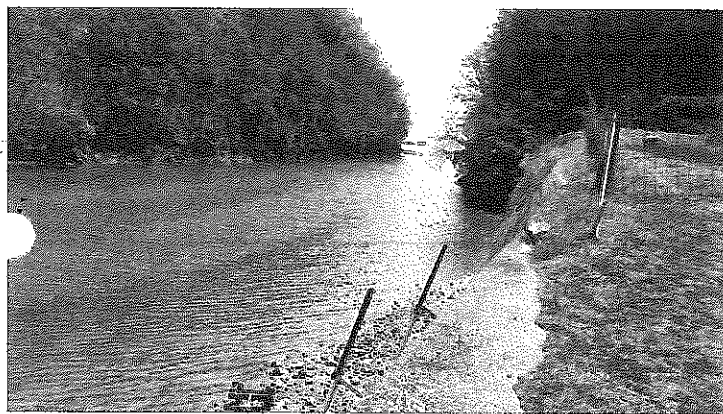


4階には宿泊施設も整っていて、研修などいつ利用してもよいと許可を頂いた。(写真左) 屋上に上がると瀬戸内の島なみが一望でき、動きたくない心地よさを感じました。(下)



写真上、左奥の島はスナメリの天然記念物指定になっているところですが、今では一匹もないとのことでした。海水の透明度もあって環境的にはとても良い印象を受けましたが、すでに絶滅危惧種にとっては、砂採取、または浚渫の歴史、などがその棲息地を破壊したと言えるのでしょうか。

右の方の島はかつて毒ガス製造の島でしたが、今ではウサギの島として人気を博していると言います。



市内を流れる「賀茂川」河口です。あいにくの小潮干潮で、岸を伝って先端の浜に行くことはできませんでしたが、この地域で去年は50匹確認できたそうです。産卵場所も特定できるよう今年の観察を組んでいくそうですが、私たちにはこの対岸の砂場がその場所として適しているように見えました。年間

50匹ものカブトガニを目視で見つけられる状態が笠岡市と比べてみても環境的にはまだまだよいとわかりました。護岸には、竹原市の条例で景観と環境を守る条例が示されていました。

